

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472603255	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	有限会社アルファプランニング			
事業所名	グループホーム春			
所在地	(252-0231) 神奈川県相模原市中央区相模原七丁目9番26号			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果 市町村受理日	平成23年2月10日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1472603255&SCD=320
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療リスクが高い利用者が多いため、病院と連携し安心できる体制を整えている。残存機能を最大限に生かし、趣味・特技を日常生活に取り入れている。職員とすると、安心して落ち着いて生活できる事が利用者に伝わる関係作り、またコミュニケーションの向上に努めている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-4 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑｽﾄ 3階		
訪問調査日	平成22年12月15日	評価機関 評価決定日	平成23年1月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム春は、相模原市に複数の介護サービス事業所を持つ法人が運営するホームで、JR横浜線、相模原駅から徒歩10分程の閑静な住宅街の一角の、日当りの良い場所にあります。建物は鉄筋コンクリート造り2階建て、2ユニット型のグループホームです。</p> <p><ホームの優れている点> 医療度の高い利用者を数多く受け入れ対応していることが挙げられます。利用者の入院時の対応や内科のかかりつけ病院への通院はもちろん皮膚科、眼科などの他の診療科についての通院にも職員が付き添い、手続をしたり、診療結果を聞いています。歯科の往診もあり、医療機関と連携した体制が整えられています。また、職員の研修体制が整えられていることが挙げられます。職員全員参加の社内研修計画を作成し、経験年数に応じ3つのランクに分け、ランク別に「動態観察・機能訓練」や「医学の基礎知識」などの研修を行っています。</p> <p><工夫している点> 建物などの施設面が充実しています。車イスの利用者のことを考え、全体がバリアフリーで、広々とした空間があり、居室・トイレ・浴室にはナースコールが設置され、浴室にはリフト浴、リビングの床暖房などの設備があります。また、畳のスペースがあり掘りごたつにも出来るようになっています。リビングのテーブルのイスは利用しやすい回転式のイスが備えられています。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム春
ユニット名	海

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時など理念共有と意味合いに関し常日頃から意識し、実践に向け話しあいをしている。	理念は、玄関ホール・事務所・リビングに掲示されています。理念である本人の意思を尊重するために、ケアの統一を徹底するようにミーティングを随時行っています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高齢者地域情報誌（地域支援センター発行）掲載。パンフレットへも理念を掲載し理念の浸透に取り組んでいる。地元自治会開催の祭りへの参加。	自治会に加入しています。自治会から敬老の日にお祝いを頂いています。自治会等が主催する敬老会、夏祭りに参加しています。クリスマス会には、マジックのボランティアが来ています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の婦人部の要請によりグループホームについて内容説明を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議設置の当該法律および省令説明、施設運営の地域密着理念や施設の特色入居状況、研修・行事の各種の計画及び実践報告、レクレーション・リハビリの実施状況を施設サイドで説明を行っている。	年4回、3ヶ月ごとに開催しています。この会議を通じて市民会館で行われた敬老会に参加しています。地域の催し物の情報を聞き、参加しています。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営責任者が市の担当者と面識があり良好な関係が築かれており、施設運営などについて話し合いを行っている。	相模原市役所の担当者より医療依存度の高い方の入居の問い合わせに対応しています。市役所主催の研修会に参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。職員においては、虐待および身体拘束について説明すると共に、研修の実施を行っている。	法人として身体拘束はしない方針を徹底しています。「身体拘束ゼロへの手引き」のマニュアルが整備され、全職員が身体拘束の排除について研修を受け、実践しています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修参加を行っている。全職員に利用者の心身確認や互いの業務の中で確認をしあい周知徹底に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」について年間研修計画の中に組み込み、職員に対し研修を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者及び家族に対し、契約書・重要事項を丁寧に説明し疑問点はその場においても、また後日でも理解して頂けるようわかりやすく対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に苦情受付ボックスの設置。随時、利用者及び家族アンケートを行い、改善項目があればそれに基づき改善を実施している。利用者及びご家族へのアンケートにより、苦情や要望を聞き取り改善を図っている。	家族の来訪時に管理者が意見、要望を聞き対処していますが、入居契約時に法人の代表者が、直接、意見や苦情の相談を受ける事も伝えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや業務改善委員会の場において職員の意見を聞き反映しやすい環境を作っている。また、職員全員を集め慰労や懇親を行っている。	意見・要望などがある場合には、職員それぞれが持つ職員ノートに記して、皆で改善しています。代表者が出席する管理者会議において管理者が職員の意見等を代表者に伝えています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持続できるよう知識・技術のスキルアップを研修及び実践の中で指導している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には入職時施設独自の介護マニュアルを配布している。また、常勤者・非常勤者の区別なく会議及び研修に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県内及び全国組織のネットワークには参加していないが、市内3社市外2社と相互交流をし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいてご家族やご本人より生育歴はもとより趣味嗜好、職歴をよく聞きこみ事前情報を理解したうえでご本人とゆっくり関わっていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、将来の方向性などを聞き込み、また経済状況なども話しやすい雰囲気を作りニーズにあった相談を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状態では当施設では受け入れできないケースについては、当該施設やまた病院、当該福祉サービスの紹介を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴を大切に無理のない範囲で日常生活（料理、掃除など）の中からお互いに教えあい、楽しみながら支えあう関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設運営の「利用者サイドに立つ」という根幹をもとに普段の日常生活の報告、相談などを通し家族との信頼関係を深めている。ご家族へは行事などに参加して頂き共に利用者を支えることに努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、知人など馴染みの方が複数訪問されている。電話の取次ぎ連絡や手紙も取り持っている。友人や知人に会いに行くことはご家族の協力を頂かないと現実的には極めて困難な状況である。	地域の詩吟同好の友人が面会に来ています。墓参りや馴染みの美容院へは家族の協力をお願いしています。通院リハビリの帰りに馴染みの場所を通って帰って来たりしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションなどを通じ同じ時間を共有する場をつくることで利用者同士が関わり合い支えあいができるよう支援している。また、散歩等の際、車椅子をやさしく押したりと思いやりのある行為も見られている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状サービス利用契約が終了されたご家族より相談もあるため関係を断ち切らず支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人との関わりの中で職員はアセスメントを考慮し、ご本人サイドにたって出来る限りニーズの充実を図っている	入浴時やトイレ介助、ベット移動の際の利用者との1対1の場面で、希望や意向を聞くようにしています。夜勤の職員に、日中聞けなかったことを引き継いで聞いてもらうよう連携しています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント内容と利用開始後の普段の会話の中から何を求めているか理解しその方にあった暮らし方や環境づくりに努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の動態観察や日常生活の中から、できる・できない、する・しないの把握をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に対しチームアプローチ（医療面は定期受診時医師よりのケア助言をもらうなど支援側のそれぞれの立場の意見を取り入る。）にて介護計画を作成している。期間終了はもちろんのこと心身の変化の生じた場合、また介護認定更新時には見直しを行っている。	介護計画は、モニタリングを行い、全職員がアセスメント表を作成し、サービス担当者会議を開催し、かかりつけ医の診断や意見を参考にして作成しています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭により常時情報交換は行っており、実践や介護計画に生かしている。介護記録や申し送りノートを活用し、身体面及び精神面を把握できるよう工夫している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の要望を聞くとともに施設独自の企画を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防に対しては消防職員との連携をはかり、年2回の避難訓練等を実施している。また、消防職員に対し当施設の利用者の把握をお願いしている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後は速やかに連携医療機関の医師により医療・介護の支援の方向性を明確にすることで、ご本人やご家族に安心した支援が築かれている。また、医療経過の連絡も行っている。	最低3ヶ月に1度、かかりつけ医の健康診断を受診しています。受診については、すべて職員が通院支援しています。皮膚科、眼科、リハビリ等にも職員が付き添っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の看護師に受診の際は相談しアドバイスを受けている。法人が運営する通所介護の看護師に処置などについて相談している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は施設より介護サマリーの提出を行っている。連携医療機関が急性期であるため病状により退院計画に沿って、ご家族を含め施設側と協議し迅速な対応を行っている。施設へ帰れぬ状況では療養病床や老健への転院の相談・紹介を行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現状、重度化終末期状態のご利用者はいない。</p>	<p>看取りはしない方針ですが、重度化や終末期の対応については入居時に説明しています。重度化した場合はかかりつけ医、家族と話し合い対処することとしています。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変や事故発生時に対する、応急手当や初期対応は、施設独自の介護マニュアルを職員に渡している。夜間時における緊急対応は連絡網がある。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練の実施により非常誘導路の確保、消火器訓練を実施している。施設内には消火設備が設置されている。</p>	<p>「災害マニュアル」を整備し、非常持出袋を準備しています。7月は、夜間想定の方針を非難訓練・通報訓練を行い、12月には消防署職員の指導の下、避難訓練・通報訓練に加え消火訓練を行っています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員に対しては、利用者に対し気配り・気遣いの徹底を行っている。プライバシーを損ねる言葉かけなどは虐待にも発展しかねない行為であり研修の中でも職員に対しプライバシーの確保の指導を行っている。	個人情報に関するマニュアルを整備し、研修を行っています。人格を尊重し、言葉遣いや態度に注意して支援しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の声かけやコミュニケーションを図り発言しやすい環境を作り、本人の決めた内容によりあわせ、無理のないよう実施している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣を尊重し一人ひとりの日常生活を把握し、体調や気分に合わせて過ごせるよう勤めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室は本人の望む店に行っている。当施設にて理美容を希望されている方に関しては出張理美容を入れている。毎日の身だしなみは本人の希望にあわせ行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者アンケートによりニーズを把握した献立の提供を行っている。その方の力を活かしながら、他者との調和を考え、準備や片付けに参加している。	本社で栄養バランスを考えた献立を作成していますが、利用者の要望も受け付けています。利用者の能力に応じて盛り付け、下膳などを行っています。あらきざみ食、ミキサー食など利用者に応じて対応をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲酒・喫煙は医師の指示のもとに行っている。また、他利用者への配慮を考慮し場所や時間を決め飲酒・喫煙を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は一人ひとりの口腔内の状態を把握し、その状態にあった口腔ケアを実施している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別により、パッド・リハビリパンツ着用者は、まずリハビリパンツ使用を止め、段階的にパッド使用を減少させている。昼間外し夜間時のみ使用、次に昼夜共に外せるようにと無理なく段階的に行っている。	個別の排泄パターンや習慣を把握し誘導支援に努めた結果、リハビリパンツやパッドの使用が減少したり、車イスなしで独歩で行けるようになったり、付添いなしで自力で出来るようになったりしています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄にリズムをつかむ事、便意時の表情や、行動を見極めスムーズに誘導することにより、的確に排便を促す。個々の排便間隔を把握する。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	心身にあたえる良好な要因を考慮しつつ利用者の生活習慣を大切に回数にとらわれることなく提供している。	最低週2回の入浴になっていますが、本人の意向に沿って入浴が出来ます。リフト浴機が設置され半数近くが利用しています。嫌がる人には入浴時間や日にちを変えたり、言葉掛けの工夫や世間話をしながら誘導しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調にあわせ休息を取ったり、安心・安全の暮らしを提供し、安眠できるよう努めている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容や副作用については処方内容を確認するよう徹底しており誤薬防止のため職員同士の二重チェックをしている。日々の状態変化を動態観察を主に行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で家事役割が自然と利用者の交流の中から生まれるよう支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	気分転換や楽しみを味わっていただく為、全員でレストランへ食事に出かけている。また、一人ひとりにメニューより選んでいただき、その空間を楽しんでいる。	利用者の体調を考慮し、天気の良い日には極力散歩に出るようにしています。気分転換のため近所のスーパーへの買い物に出かけたり、年間行事の中で季節ごとに外出しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持に関しては管理可能な方に限定されている現状があるが、困難な方には力量にあわせて支援しているが施設にて保管している方もいる現状である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常時プライバシーに注意し、電話使用、手紙をやり取りが行われている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさ・光調整を行っている。生活観や季節感を常に意識し、利用者作成の作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	リビングやトイレ、浴室、廊下は明るく、嫌な音や臭いもなく清潔です。台所はリビングと一体化のオープンキッチンシステムを採用し快適で安心して過ごせる環境になっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	喫煙者には喫煙場所の確保。入居者同士で談話をしたり、環境気分転換のため1人でもくつろげるようソファの設置・和室を設けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある使い慣れた家具・仏壇・人形・ラジオ等の生活用品を自由に持ち込んで頂き、その人らしい部屋作りを行っている。居室表札については個人や家族の要望を尊重し氏名や目印をつけている。	使い慣れた家具や姿見、仏壇、馴染みの人形ケースやぬいぐるみ、好みのカーテン、家族の写真などが持ち込まれ、本人本位の居室作りをしています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要個所に手すりの配置、また洗面台の高さ調整など配慮している。安全面については床に弾力性のある素材を使用し、転倒骨折の防止を図っている。		

事業所名	グループホーム春
ユニット名	空

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時など理念共有と意味合いに関し常日頃から意識し、実践に向け話し合いをしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高齢者地域情報誌（地域支援センター発行）掲載。パンフレットへも理念を掲載し理念の浸透に取り組んでいる。地元自治会開催の祭りへの参加。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の婦人部の要請によりグループホームについて内容説明を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議設置の当該法律および省令説明、施設運営の地域密着理念や施設の特徴入居状況、研修・行事の各種の計画及び実践報告、レクレーション・リハビリの実施状況を施設サイドで説明を行っている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営責任者が市の担当者と面識があり良好な関係が築かれており、施設運営などについて話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。職員においては、虐待および身体拘束について説明すると共に、研修の実施を行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修参加を行っている。全職員に利用者の心身確認や互いの業務の中で確認をしあい周知徹底に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」について年間研修計画の中に組み込み、職員に対し研修を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者及び家族に対し、契約書・重要事項を丁寧に説明し疑問点はその場においても、また後日でも理解して頂けるようわかりやすく対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に苦情受付ボックスの設置。随時、利用者及び家族アンケートを行い、改善項目があればそれに基づき改善を実施している。利用者及びご家族へのアンケートにより、苦情や要望を聞き取り改善を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや業務改善委員会の場合において職員の意見を聞き反映しやすい環境を作っている。また、職員全員を集め慰労や懇親を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を継続できるよう知識・技術のスキルアップを研修及び実践の中で指導している。健康診断の実施等職員の心身の健康を保つよう努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には入職時施設独自の介護マニュアルを配布している。また、常勤者・非常勤者の区別なく会議及び研修に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県内及び全国組織のネットワークには参加していないが、市内3社市外2社と相互交流をし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいてご家族やご本人より生育歴はもとより趣味嗜好、職歴をよく聞きこみ事前情報を理解したうえでご本人とゆっくり関わっていく。また、事前情報の中で禁句には特に注意して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、将来の方向性などを聞き込み、また経済状況なども話しやすい雰囲気を作りニーズにあった相談を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状態では当施設では受け入れできないケースについては、当該施設やまた病院、当該福祉サービスの紹介を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴を大切に無理のない範囲で日常生活（料理、掃除など）の中からお互いに教えあい、楽しみながら支えあう関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設運営の「利用者サイドに立つ」という根幹をもとに普段の日常生活の報告、相談などを通し家族との信頼関係を深めている。ご家族へは行事などに参加して頂き共に利用者を支えることに努めている。また、協力して頂いた事に職員は感謝の心を持って頂きたい		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、知人など馴染みの方が複数訪問されている。電話の取次ぎ連絡や手紙も取り持っている。友人や知人に会いに行くことはご家族の協力を頂かないと現実的には極めて困難な状況である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションなどを通じ同じ時間を共有する場をつくることで利用者同士が関わり合い支えあいができるよう支援している。また、散歩等の際、車椅子をやさしく押したりと思いやりのある行為も見られている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状サービス利用契約が終了されたご家族より相談もあるため関係を断ち切らず支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人との関わりの中で職員はアセスメントを考慮し、ご本人サイドにたって出来る限りニーズの充実を図っている。また、利用者アンケートをとりニーズの把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント内容と利用開始後の普段の会話の中から何を求めているか理解しその方にあった暮らし方や環境づくりに努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の動態観察や日常生活の中から、できる・できない、する・しないの把握をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ・本人は日常生活の中で、家族に関しては面会時もしくは電話等で連絡を取り合い、ご意見ご要望を計画の中に取り入れる。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭により常時情報交換は行っており、実践や介護計画に生かしている。記録上の身体面は詳細なものの精神面はやや不足気味である。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の要望を聞くと共に、安心して暮らし続けていく為にサービスを行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防に対しては消防職員との連携をはかり、年2回の避難訓練等を実施している。また、消防職員に対し当施設の利用者の把握をお願いしている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後は速やかに連携医療機関の医師により医療・介護の支援の方向性を明確にすることで、ご本人やご家族に安心した支援が築かれている。また、医療経過の連絡も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の看護師に受診の際は相談しアドバイスを受けている。法人が運営する通所介護の看護師に処置などについて相談している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は施設より介護サマリーの提出を行っている。連携医療機関が急性期であるため病状により退院計画に沿って、ご家族を含め施設側と協議し迅速な対応を行っている。施設へ帰れぬ状況では療養病床や老健への転院の相談・紹介を行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現状、重度化終末期状態のご利用者はいない。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変や事故発生時に対する、応急手当や初期対応は、施設独自の介護マニュアルを職員に渡している。夜間時における緊急対応は連絡網がある。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練の実施により非常誘導路の確保、消火器訓練を実施している。施設内には消火設備が設置されている。また、非常用食料、備品を準備している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員に対しては、利用者に対し気配り・気遣いの徹底を行っている。プライバシーを損ねる言葉かけなどは虐待にも発展しかねない行為であり研修の中でも職員に対しプライバシーの確保の指導を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の声掛けやコミュニケーションを図り発言しやすい環境を作り、本人の決めた内容によりあわせ、無理のないよう実施している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣を尊重し一人ひとりの日常生活を把握し、体調や気分に合わせて過ごせるよう勤めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室は本人の望む店に行っている。当施設にて理美容を希望されている方に関しては出張理美容を入れている。毎日の身だしなみは本人の希望にあわせ行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者アンケートによりニーズを把握した献立の提供を行っている。その方の力を活かしながら、他者との調和を考え、準備や片付けに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>飲酒・喫煙は医師の指示のもとに行っている。また、他利用者への配慮を考慮し場所や時間を決め飲酒・喫煙を行っている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後行っており、義歯使用者へは每晚洗浄剤に浸けている。また、最終管理確認は職員が行っている。訪問歯科導入により口腔ケア指導を実施。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。排泄の自立に向けた支援を行っており、段階的に排泄感覚を取り戻し補助用品がはずせるよう、トイレで排泄できるよう心がけている。失禁時には他者に知られぬよう迅速に対応している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘防止のため排便を促すヨーグルトや食材の検討をしている。また、毎日ラジオ体操をはじめ腹式呼吸など適度な運動に取り組んでいる。医師の指示のもと便秘薬の調整も行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>心身にあたえる良好な要因を考慮しつつ利用者の生活習慣を大切に回数にとらわれることなく提供している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	その日の体調にあわせ休息を取ったり、安心・安全の暮らしを提供し、安眠できるよう努めている		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	利用者の服薬内容や副作用については処方内容を確認するよう徹底しており誤薬防止のため職員同士の二重チェックをしている。日々の状態変化を動態観察を主に行っている。		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	日常生活の中で家事役割が自然と利用者の交流の中から生まれるよう支援している。また、個別レクリエーションの充実を図り、買物・散歩等で気晴らしを行って頂いている。		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している</p>	散歩や買物への外出は行っているが、希望に沿ってお連れする事が難しい場合がある。		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	所持に関しては管理可能な方に限定されている現状があるが、困難な方には力量にあわせて支援しているが施設にて保管している方もいる現状である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常時プライバシーに注意し、電話使用、手紙をやり取りが行われている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさ・光調整を行っている。生活観や季節感を常に意識し、利用者作成の作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	喫煙者には喫煙場所の確保。入居者同士で談話をしたり、環境気分転換のため1人でもくつろげるようソファの設置・和室を設けている。 現在、喫煙者はいらっしゃいません。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある使い慣れた家具・仏壇・人形・ラジオ等の生活用品を自由に持ち込んで頂き、その人らしい部屋作りを行っている。居室表札については個人や家族の要望を尊重し氏名や目印をつけている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要個所に手すりの配置、また洗面台の高さ調整など配慮している。安全面については床に弾力性のある素材を使用し、転倒骨折の防止を図っている。また、混乱や失敗の原因を把握し、本人の出来るところ出来ないところを把握し、自立して暮らせるよう支援している。		

目標達成計画

作成日：平成23年2月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員を育てる取り組み。	社内研修の実施を継続する。(現在は月次のフロア研修と、今年度より経験年数に応じた研修の実施を3回行っている。)	月次研修は今まで通り、本年度より開催した経験年数別の研修を継続して行いたい。また、研修内容も、マンネリ化しないよう、内容の変更を行う等、工夫をする。	12ヶ月
2	6	利用者家族等のアンケートの結果の反映。	アンケートの結果、改善してほしい点、気になる点で挙げられた意見に対し、改善を図れるものに対しては改善を図る。	フロアスタッフの問題だけでなく、事業所、組織としての問題も挙げられているので、その問題に応じた人員での会議を行い、改善に向けて取り組んでいきたい。	12ヶ月
3	4	2ヶ月に一度の「運営推進会議」の開催が義務付けられているが、現状は3ヶ月に一度の開催となっている。	2ヶ月に一度の開催を行う。	参加者への呼びかけ、連絡を密に取り、2ヶ月に一度開催できるように心がけたい。また、会議内容がマンネリ化しないよう、施設側からの話だけでなく、今まで通り、参加者全員からの意見等を取り入れていきたい。(平成23年1月から施行)	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。